巻頭特集

各務原出身の絵本作家 岡田新吾さん・星野雨さん

2018年にクッピーラムネの絵本を発表した児童文学作家・絵本作家の岡田新吾さんと、イラストレーター・絵本作家の星野雨さん。2人はどちらも各務原市の出身です。それぞれの歩みや共作の経緯などと合わせ、地元に対する思いや今後の目標などを聞きました。

子ども向け出版物の制作を経て多数の児童小説や絵本を発表

1963年の発売開始以来、たくさんの人たちに愛され続けているラムネ菓子「クッピーラムネ」。ウサギのクッピーちゃんとリスのラムちゃんが丸太に座ってラムネを食べているパッケージデザインは、誰もが一度は目にしたでしょう。2018年、そんなキャラクターたちが主人公になった絵本「クッピーとラムのたのしい森のピクニック」が発売され、大きな話題を呼びました。

主人公たちが得意なことを生かして助け合うストーリーを書いたのは、各務原市出身の児童文学作家・絵本作家である岡田新吾さんです。各務原市で生まれ育った岡田さんは、大学進学のため上京。卒業後は都内のPR会社や広告制作会社でコピーライティングなどを経験しました。地元にUターンした後、1997年に名古屋市で広告デザイン会社を創業。名古屋市環境局が発行する小学生用社会科副読本を制作したり、学研の小学生向け学習雑誌「4年の科学」の巻頭特集ページを中心とする編集を7年間にわたって担当するなど、子どもを対象にした出版物の分野でも活躍。2009年には児童小説「約束のつばさ」を発表し、作家デビューを飾りました。

その後も、動物の生態を正しく伝える東山動植物園監修の「シャバーニ だいすき」や、子どもたちの身体表現を扱った「のび〜る のび〜る」など、明確なテーマを掲げた絵本を数多く発表。児童小説も含め、これまでに多数の著書を出版しています。

ともに各務原市出身の2人。「絵本をつくるときも、お互いに思い描く風景が似ているのかもしれません」と話してくれました

これまでに岡田さんが手がけた児童小説や絵本の数々。クッピーラムネの絵本「クッピーとラムのたのしい森のピクニック」（三恵社）をはじめ、2009年に発表した児童小説の処女作「約束のつばさ」（ゆいぽおと）、東山動植物園監修の「シャバーニ だいすき」（三恵社）、2019年に発売されたもっとも新しい絵本「あちち あちち」（三恵社）など、多彩な作品を発表しています

2人が共作にいたった経緯と作品づくりでこだわったこと

「クッピーとラムのたのしい森のピクニック」は、かわいらしく現代風にアップデートされたクッピーちゃんとラムちゃんも大きな魅力。イラストを担当したのは、同じく各務原市の出身で、イラストレーターや絵本作家として活躍している星野雨さんです。星野さんは各務原市内の中学と高校を経て、名古屋市内のデザイン専門学校を卒業。現在は企業SNS広報やイラストディレクター、原宿ファッションのイラストなどを手がけています。

2人の出会いは今から6年ほど前。星野さんが、岡田さんの会社でインターンシップを経験したのがきっかけでした。

「当時からイラストがすごく上手で、そのときの印象が強く残っていたものですから、ぜひ星野さんの描いたクッピーちゃんやラムちゃんを見てみたいと思ったんです」と岡田さん。星野さんにとっては、本作が絵本作家としてのデビュー作になりました。

「オリジナルの世界観を元に、LINEスタンプでよく見られる色の塗り方なども参考にしながら、何度も試行錯誤を繰り返しました」と星野さん。色のにじませ方やグラデーションでキャラクターのかわいらしさを強調したり、背景の色に濃淡をつけて奥行きを出すなど、水彩画の良さを生かして絵本らしいあたたかみを加えることにこだわったと振り返ります。

発売の翌年にあたる2019年7月には、名古屋の栄地下街で開催された「絵本クリエーター展2019」に出展。その後も、同年11月に各務原市の「学びの森」一帯で「マーケット日和」にあわせて開催された巡回展でも紹介されました。さらに、今年に入ってからも「絵本クリエーター展」の巡回は続き、草叢BOOKSの各務原店でもイベントが行われました。

子どもたちに向けた思いと地元である各務原の魅力

絵本の創作をはじめとして、子どもたちを対象とした仕事が大好きという岡田さん。「ダイレクトな反応がストレートに返ってくるのが面白いですし、何よりも子どもたちは、日本の未来にとっての宝物。これからも、自分なりにいろいろなメッセージを伝えていきたい」とほほ笑みます。一方の星野さんも、「私も小さい頃から絵本が大好きだったので、今の子どもたちにも絵本の楽しさを伝えていけたら。今後も、みんなの記憶に残るような表現を目指していきたいです」と話しました。

さらに2人は「各務原市の魅力を作品に取り入れていきたい」という思いも共有しています。「児童小説を書くときも、幼い頃に見た風景や思い出をイメージすることが多いんです。各務原は、きれいな木曽川が流れていたり、にんじん畑の景色が広がっていたり、とても自然に恵まれた場所。今回の絵本でも、星野さんと2人で地元をロケハンしたんです」と岡田さん。星野さんも「毎秋、各務おがせ町の村国神社で行われている子ども歌舞伎や、名産品である各務原にんじんや鮎料理など、地元の郷土芸能や文化なども積極的に発信していきたい」と声をそろえます。

ともに各務原市出身のクリエイターである岡田さんと星野さん。2人による絵本の共作は、まだまだ始まったばかりです。これからも同じ地元であることの利点を生かしながら、たくさんの素敵な絵本をつくっていってくれるに違いありません。

上）2019年11月にイベント「マーケット日和」の一環として開催された「絵本クリエーター展 各務原2019」。各務原市中央図書館と学びの森にあるカフェ「KAKAMIGAHARA STAND」の2箇所で行われ、たくさんの子どもや保護者で賑わいました　下）今年1月から2月にかけての1ヶ月間、草叢BOOKSの各務原店で行われた「絵本クリエーター展 in 草叢BOOKS」

児童文学作家・絵本作家
岡田新吾さん
Okada Shingo
名古屋の広告デザイン会社、有限会社エピスワードの代表取締役でもあり、中日新聞が発行する小学校高学年向けの週刊新聞「中日こどもウイークリー」の制作なども行っています

イラストレーター・絵本作家
星野雨さん
Hoshino Ame
デジタルと水彩画を融合させた、独特であたたかみのある表現を得意としています

有限会社エピスワード　名古屋市中区栄5-16-14 新東陽ビル6F　http://www.episword.co.jp　文／藤原均　写真／編集室　デザイン／chica